

午後 1 時 30 分 開始

【広報広聴課長】 皆さん、お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、2月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後事業発表をいたします。

質問につきましては、最初は事業発表項目についてお願いいたしたいと思っております。発表項目に係る質疑終了の後、次第の3番目フリーの質疑応答へと進行したく思っております。

終了予定時は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、早いものでもう2月であります。定例の会見であります。また予算の発表も近いうちにあるようでございますので、今日はひとつよろしくお願い申し上げます。

まず、APECの記念事業開催実行委員会を開催いたします。お手元の資料の日時は明日でありますけれども、11時から。このAPECにつきましては、やはり福井県、多くの原子力発電所があるという関係もあったというように存じます。福井市が中心で開催をされるわけですが、私ども、原子力発電所のたくさん嶺南の各市町が協力をいたしまして、関西中京圏を結んで幅広い層にわかりやすくAPECやエネルギーについての啓発をしながら、また理解を深めるためにこの敦賀市でイベントを開催したいということで、この実行委員会を開催するところであります。

内容等については、また明日の取材をしていただきたい、このように存じます。

次に、環境フォーラムでありまして、これも例年開催いたしておりますけれども、2月27、28日の土日であります。2日間にわたりまして、きらめきみなと館において開催をいたします。これも詳しい資料などはお手元に配付の資料のとおりであります。

次、3番目。敦賀さくらの里実行委員会によりまして第3回目の植栽会を開催いたします。おかげさまで本当に多くの皆さん方の協力をいたしております。今回はもう最後になるわけですが、桜の植栽本数につきましては、目標といたしておりました1,000本を超えるわけでありまして、今、散策路の整備なども計画的に実施をいたしておりますし、数年後にはかなりいい桜の里に育っていくのではないかなというふうな期待もいたしているところであります。これは3月の話でありますけれども、3月7日に行うわけですが、また私もしたいというような、新聞記事に載りますとそういう方が増えるというふうに思いますので、またよろしくお願いしたい、このように存じます。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました3項目につきまして質問をお受けしたいと思っております。

最初に幹事社のほうからお願いしたいと思っております。

【記者】 この記念事業なんですけど、そういうふうな形でかなり費用を使って盛大にやられるようですが。

【企画政策部長】 今のところ、これは当初予算の要求にも出している金額でございます。1,200万の予算を計上させていただいております。

やることは、今、市長からも御紹介ございました。電力の生産地と消費地を結ぶ何か記念イベントができないかということで、2月2日、実行委員会を立ち上げた後、ワーキンググループ等を設立しまして、その中で中身を決めていきたいと考えております。

【記者】 敦賀市の環境フォーラムなんですけれども、毎年やられているということなんですけれども、今年は何か目玉というか、こんなことやりますよというものがあるのかどうかということをお教えください。

【市民生活部長】 目玉というんですか、今回は環境に関するポスターとかいろんなものを応募しまして、今までは500件ぐらいの応募だったんですが、今回は1,215件というふうな応募がありまして、それらも全部ここに掲示をさせていただきたいと思っておりますし、そしていろんな環境に関するところの不用品を使って物を作るとかといったような、子供対象

にもやらせてもらいたいというふうに考えております。

【記者】 今回はリサイクル工作教室、そういう不要な物を使って、なるべくこうやってできますよということなのかが前回と違うというか、ちょっと熱くやっているみたいなイメージ、感じなんでしょうか。

【市民生活部長】 そうですね。

まず、環境というのを大事にしまして、不用品をあくまでも少なくしようということと、もう1点は、今年、ある団体が作りました賢い買い物ブックというようなものをこちら辺に展示して、販売をさせてもらいたいなということでございます。

【記者】 さくらの里整備事業のことなんですが、これ何年か前からやられていると思うんですけども、一番最初に植えられたものとか2年目とかわかんないですけども、成長なんかは順調に育っているような感じなんでしょうか。

【副市長】 私も毎回出せていただいておりますけれども、実は枯れたものもあるんです。それは順次、植えかえながらやっていますので、見た目は植えかえてもわかりませんけれども、順調だということです。

【広報広聴課長】 それでは、各社にお聞きしたいと思います。

今の発表項目3項目につきまして、質問のある方、挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 市長、APECに関連して、何かこちらでもやりたいということをおっしゃったじゃないですか。それはこの記念事業のことを指していらっしゃるんですか。

【市長】 敦賀でイベントをしたいということで、明日、大体内容等について審議をいただく。関西、中京に近いのと、やっぱり子供たちにエネルギーのこと、環境のことを含めて考えてもらえるような、そのようなイベントにしたいと今思っていますけれども、実質的には明日、審議をいただきたいと思っています。

【記者】 今のお話だと、いわゆる産消交流のやつとか、エネルギー教育とかという意味合いなんですよ。この前とかのお話聞いているとやっぱりもんじゅとかに担当大臣の皆さんを招けないかと。それとはまた別の話なんですよ、これは全然。

【企画政策部長】 日程を見ますと、19日は大臣会合、ただ翌日20日にエクスカージョンを予定されているということをお聞きいたします。

ただ、敦賀のどこを見ていただけるかというのはまだ未定でございます、できれば今おっしゃられましたもんじゅ等を見ていただきたいなという思いは持っております。

【副市長】 ただ、それは大臣が来て、エクスカージョンに参加するということが決まっているわけではないです。

【記者】 それは希望なわけなんですよ。

意味合いとして、これはまた別なんですよ、だから。

【市長】 別です。

大臣も来て欲しいですけども、なかなか警備の関係でかなり難しいと思います。

【広報広聴課長】 ほかに、質問ございませんか。

ないでしょうか。

ないようですので、次に、次第の3番目にいきたいと思っております。

フリーの質疑応答へといきたいと思っております。これも最初に幹事社のほうから、質問ありましたらお願いいたします。

【記者】 市長さんに伺いたいんですけども、例のもんじゅなんですけれども、間近に運転再開を控えていますよね。それで、機構のほうから打診があると、県や市は返事はもうほとんど余り間を置かないで返事を出す予定なんですか。かなり考える予定なんですか。

【市長】 まず、もんじゅといいますか、機構自体はもう一日でも早く再開をしたいという思いは持ってらっしゃるというように思いますし、今までのいろんな報道なんかを見ましてもそのとおりだというふうに思っております。そこで、大体準備は整ったという機構のお話でありますので、まだこれから保安院なり、いろんな審議があるというように思いますから、今はそれを見守っていくしかないなというように思っております。

それと、それがもし正式に国のほうとしても太鼓判を押してくれるようなことがあれば、そう時間は置く必要はないのではないかと思いますけれども。

【記者】 もんじゅに関連してなんですけれども、もんじゅを動かすときの条件というか、

考えなくちゃいけないことって、長期間止まっているものの総合的な安全性とともに耐震もあると思うんですけども、設備の安全性なんかについては保安院さんが着々とやっているんで、その動きも見やすいし、評価するまでもうちょっとなんだろうなと思うんですけども、耐震のことというのはなかなか見えにくいですし、今年度中の3月までに終わるかどうかもわからないとなると、そこでやっぱり耐震が何か出てからという形なんですか。そのあたりはどういうふうにお考えなんでしょうか。

【市長】 確かに耐震のほうも上の部分と下の部分のことがあって、いろいろと議論されているというふうに住じます。ただ、基準地震動ですか、760ガルというのは了承されているというふうに向っておりますし、また評価書案もほぼ了解が得ている。国のほうも大体大丈夫じゃないかというようなこともお話をしているようであります。ただ、設備のほうの健全性についても機構としては問題がないというふうの評価をしているようであります。今後、評価書の案も検討が国でされていくというふうに思いますので、それを見守っていきたいと思います。

【記者】 先ほどのもんじゅの耐震性のお話で、国のほうが太鼓判を押してくれたらというのは、具体的には何らかの報告書なりを国のほうで作成して欲しいということですか。

【市長】 国のほうで、大丈夫ですよというようなことの報告があればいいと思います。報告書どうのというよりも、国として、これなら大丈夫ですよというようなことが報告いただければいいと思います。

【記者】 口頭で大丈夫ですよと言えばよろしいということですね、国が。

【市長】 何か文面は持って来られるかもしれませんが、そういう、例えばそれなりの方がお越しになって、こういう方向で大丈夫ですねということをおっしゃっていいと思います。

【記者】 それなりの方というのはどういう方なんでしょう。

【市長】 どういう方でしょうね。そういう部門の責任を持っておられる方でいいと思います。そういうお越しになってお話しすれば、当然、プレスの前になるというふうに思いますので、それで十分だと思います。決して、密室では行いませんから。

【記者】 耐震の関係で、敦賀原発1号機では40年運転する際に、個別の住民説明をやっておられました。市長もその結果を待ってというお話です。もんじゅの運転再開に関して、そのようなことは求められますか。

【市長】 ついせんだって、地域住民の皆さん方を対象にいろんな説明会もあったようございますので、いろんな情報などもマスメディアを通じて市民の皆さん方も周知をされているというふうに思います。そういうことでいいのではないのかなと思いますけれども。

【記者】 敦賀原発1号機の40年運転は戸別訪問というのがありましたけれども、もんじゅに関してはなくてもよろしいというお考えでよろしいですか、戸別訪問は。

【市長】 大体耐震とかそういうことは、ある程度共通した部分でもあるというふうに存じますし、40年超えた炉と、たまたま事故で止まった炉の違いもあるのではないかなというふうに存じます。また、民間会社として日本原電さんが決めて行った行動でありまして、機構としてそういうことが必要であるというふうに判断されたら、されてもいいというふうに存じますけれども、こちらから絶対それをやりなさいとは、今は言うつもりありません。

【記者】 質問が出ました流れの中で、耐震の件は、この前、知事も新年の会見の中で受け答えがあったみたいですが、文面を見る限り、ちょっとあいまいなやり取りだったので、ちょっときちんと確認した上で聞きたいと思います。

耐震安全性の確認後は、原発の耐震設計審査指針の改定に伴って、原子力安全委員会が行政庁である経済産業省原子力安全・保安院のほうに、耐震性が合致しているかどうかというのをきちんと調べるようにという要請を保安院にして、保安院が電力会社に対してきちんと新しい知見を反映させた上で耐震安全性評価をしなさいという指示を出していて、保安院も原子力安全委員会も原子力機構も文部科学省も、いわゆる許認可、行政の法的な規制の枠の外であるということは明言しています。だから、必ずしも耐震のバックチェックが終わらないと原発を運転できないという法律上の決まりはどこにもないというのは明

らかだと思えますけれども、現実にはプルサーマルの問題なんかでいうと、伊方の場合は、昨日、耐震安全性の確認が終わった、原子力安全委員会まで終わったというところで、プルサーマルとしてオーケーしたと。松江市なんかは、少なくとも保安院の評価書はきちんと出た上でオーケーしたと。もんじゅの運転再開というのはそれに比較して、まだその評価書がきちんとしたものが出ていない段階でオーケーしていいものなのかなと疑問に思うんですが、市長、その辺どうですか。

【市長】 私、国のお墨つきというところであれですけれども、安全に対するものをいただくことが一番いいというように思っております。

【記者】 現実には多分原子力安全委員会まで保安院の報告書が行って、原子力安全委員長名でオーケーというところまで、多分年度内に到達するのが無理で、それは多分もう不可能。それはそれとして、保安院の2つの審議会のほうの、下のほうの審議会と上のほうの審議会と両方で評価書が固まらないうと保安院としての評価書が固まらないし、評価書案というのが出てこないと思います。それもかなり年度内だとぎりぎりになるんじゃないかと思えます。それを待っていると、保安院のこのもんじゅ安全性確認検討会でオーケーが出たからといって、そのタイミングで保安院として、ペーパーできちんとした評価が出ていない段階で運転再開の事前協議願を持ってくる可能性もあるんじゃないかなと思うんです。要するに、その段階でも市長は別にそれを受けられるんですか。オーケーするか別として、協議を持ってくることはやぶさかではないんですかね。

【市長】 何の協議ですか。

【記者】 事前協議願です、運転再開の。それはもう別に保安院の審議会できちんとしたものが出ていない段階でも持つてくる分にはいいんですか、事業者が。

【市長】 中身というか、内容説明にもよりますけれども、そういう時期になればそういう話がいろいろ出てくると思いますので、しっかり聞きたいなと思います。

【記者】 別に、きちんとした評価書が出ていなくても、きちんとした説明を受けられればいいということなんですかね、今の市長のお話だと、耐震の問題に関しては。

【市長】 耐震については何度も言いますが、いろんな基準があったり、実際にわからない部分と言え、上と地下にある話ですから、なかなか人類としては100%解明ができる部分でもありませんので、しかし、概ねいろいろ過去の知見とかずっと調べた中で、100%ということはありませんけれども、概ね安全であるということが確認をされていければいいのかなという気はします。

【記者】 私だけが知らなかったら申しわけないんですが、先月、敦賀1号機の40年超える運転について、機会があれば知事に近いうちに伝えるというふうに、市長、おっしゃったんですが、その点はどうなったのか教えていただけますか。

【市長】 私のほうは前もお話ししましたとおり、大体概ね大丈夫だという思いを持っていますけれども、知事のほうはいましばらく時間をとということでありますので、時間的なことを考えれば、恐らくこちらからせかして、大丈夫ですというわけにもまいりませんので、恐らく知事のほうで判断されたときに話を聞きたいと言っておりましたから、一度話を聞きたいけれども来てくれんかとかというそういう話になるというように思っていますので、それを待たばいいと思っています。

【記者】 前回の会見では近くとおっしゃっていましたが、まだ話ししていないという。

【市長】 まだしていません。

例えば、市長会の中で知事とお会いしたりとか、そういうところで口頭では、私とすれば新聞記事に出ていたとおりの思いですよということは伝えてはありますけれども、そのうちに知事のほうから何らかのアクションがあるのではないかなと思います。そのときに政治はスピードですねとは一言言っておきましたけれども。

【記者】 今の質問に関連してなんですけれども、先週、敦賀商工会議所の新春議員懇談会ありましたね、サンピアで。その際、西川知事もお見えになっていまして、市長もおいででした。1月のこの会見のときに、例えば今のお話ではありませんけれども、新年のあいさつの際とかでも、そういう話になることもあり得るというふうなことをおっしゃっていたんです。この間、お顔を会わせておりますから、2人。しかも西川知事が冒頭のあい

さつで原子力関係のことにちょっと触れまして、懸案が一つあるけれども、いけるでしょうというような発言されて、市長もその後を受けて、今、最後のほうでちらっと知事からそういう答えが出てきて非常にうれしく思うというふうな趣旨の発言をされましたが、あれはどのようなニュアンスでとらえたんですか。

【市長】 あれは議事録を拾いませんと、正確なニュアンスはつかめないかもしれませんが、最後にいろんな原子力の課題もあると。でも、私は少し前向きに、今年はいかないかなというような知事の思いが聞き取れたものですから、そういうことで、ああいう私もお話をしたところでありまして。知事も恐らくそういう面では、そういう原子力についての課題というのは、ある程度今年も前に進めないかなのかなという思いがどこかにあるのではないかなというふうに私は感じます。

【記者】 それが今の敦賀1号機の件とは受け取りはしませんでしたか。

【市長】 原子力で大まかに、例えば個別に1号の延長とか、もんじゅとかありますけれども、大体でいくと、やっぱり1号に私も聞こえました。

【記者】 市長なりに、あのときの発言そのままですけれども、いい感触を今のところは感じているというふうなことでいいですか。

【市長】 聞いていただいたとおりでと思います。

【記者】 週末を中心に民主党県連のほうに行かれて、市長もこの間、先週末も行かれたと思いますけれども、手ごたえ等、感想というか、週末ごとに結構市長行かれていますが、その辺はどういうふうにお感じになっていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 ちょうど、たまたま例の新幹線の停電があった関係で、ちょうど私は2番目で旭副知事の後にいったものですから、国会議員の先生方、実はいなくて、ほとんどもう終わる寸前に糸川先生がちょっと入ってこられて、握手して、今説明しました、よろしくお願ひします程度で済んだんですけれども、それぞれ県議会の先生方も真剣に地元の糶谷議員もいらっしやいましたし、それぞれ議員さんも入っていらして、話を聞いていただいたところでありまして。その旨、ぜひ民主党県連からまた幹事長のところに上げていただけるのではないかなというように思いますし、手ごたえといいますのもしっかりやっていたけるものだというふうに思っています。

【記者】 要望の項目の中にあっただと思いますけれども、この前、電源立地対策交付金のタウンミーティングみたいな感じの意見交換会ありました。市長は結局、感想としてはどうでした、意見交換会の手ごたえとしては。

【市長】 それぞれの首長、あのときほとんど集まりましてお話をさせていただきましたけれども、その使い勝手という部分でいろんな例をお示ししながらお話をさせていただきました、副大臣のほうもそれはそうだなというようなことで聞いていただいておりますので、ある程度改善されていくのではないかなというように思います。

また、何か第2弾もあるというようなことでございますので、そういう中でもぜひ私も立地地域に対する民主党さんの思い、また地球温暖化防止に対する原子力立地地域の思いなどをぜひこれからも反映していただいて、私どもの声に耳を傾けていただき、実行して欲しいなというように思います。手ごたえとすれば、私は十分あったと思っています。

【記者】 終わった後の増子副大臣に対する報道陣のぶら下がりなんかでも、結構、副大臣は前向きなことを約束されていたと思うんですが、事務方のほうに聞くと、それは官僚としてのレトリックだと思いますけれども、やっぱり目的税の縛りがあるということが大分気にしているというか、それはそういう論法を使うんですよね。市長の考えている使途の自由化というか、緩和というものを目指すものとしては、現行の目的税の枠組みの中でやっぱりネガティブリストをもっと撤廃して欲しいという話なのか。それとも、一種、地方交付税みたいな感じのイメージで、自治体の一般財源に入るほうを望ましいと考えているのかというのと、どちらがいいと思ってるんですか。

【市長】 お金の使い方というのは、一般財源に入るのが一番使い勝手がいいです。もう本当にいろんなところに、市側の裁量で使っていただけますので、そうならば一番いいなというように思いますけれども、確かに例えば私の給料もそちらに入ってくると、全国から集めていただいたそういう税をもらってくるので、全国民の皆さん方から給料をいただくのかなという、そういうようなことにもなるんですけれども。でも税金というのは、使

い方がしっかり明確になっていけばいいですし、目的税も確かに目的税で必要なところはたくさんあるんですけれども、私は立地地域にとると本当に一般財源になるくらいに自由にしてもらったほうがありがたい。ただ、やはりそういう報告をしなければならない部分については、こういう部分に同じ一般財源しましたけれども、こういうふうに使いましたよということを明確にできればいいのかなというふうには感じています。

【記者】 全原協会長としてはどうですか。

その辺は、多分交付団体と不交付団体でも意見が分かれてくるのではないかなと思うんです。

【市長】 全原協の中でも今ちょうど去年の6月にあつて、幹事会はあつたんですけれども、まだ政権かわつて以降、みんな集まっていないものですから、その思いについてはちょっとまだわからないところがありますけれども、恐らくやはり一番使い勝手のいいほうがいいと思っているのではないかと思います。

【記者】 事業仕分けの中の一番最後の付言みたいなのでも出ていましたけれども、要するに使い勝手をよくするということは、相対的にお金の価値が上がるわけだから、減つてもその分使い勝手がよくなって、価値が上がるということではないかという意見があつたのが事業仕分けの中であつたのと、エネ庁の担当者なんか聞いても、仮にその交付税みたいなことになったら、やっぱり限りなく一般財源というか、所管もいつまでもエネ庁が持っているかどうかわからないし、総務省に移つたら本当に交付税の算定基準などで算出され直して、結果的に減るかもしれませんよというようなことを向こうの立場として、そういうふうに言っているんですけれども、市長は別にトータルとして総額が減つたらだめという考え。

【市長】 もちろんだめです。

【記者】 話を戻しまして、もう一度もんじゅの話なんですが、耐震安全性が国のほうから、しかるべき人が太鼓判を押したという話を報告された後、市として一般住民へ説明されますか。市として、最終的な判断をするまでの間に、今、市としてこうしたいと、それはこういう根拠だからだという説明会等は開かれますか。

【市長】 説明会というのは、もしそういうことになり、ちょうど議会をやっているぐらいの時期になれば、そういう中でも発表できるというように思いますし、またこういう方向でこうしたいというようなことについてであれば、また記者クラブへ出向いてでも、こういうことでこうしますというようなことを示します。ただ、時間的に人を集めてそういう説明をしていくというのは、ちょっと時間も3月になるか、2月の終わりになるか、私もわかりませんが、あんまりそういう準備する時間はないような気はします。

【記者】 市として、いつまでに判断しなければいけないという時間というのは区切っているんですか。

機構さんは2月から3月の間にしたいというあれなんですけれども、市としていつまでに判断したいというのは。

【市長】 それはさっき言いました国としてのお墨つきがもし出なかつたら無理ですけれども、出ればやっぱりそこその時期にはしていかなければならんのかなと思います。

【記者】 国のお墨つきではなくて、市としていつまでに判断しなければならないというお考えは。

【市長】 それはいいです。お墨つきのことが肝心ですから。

【記者】 準備が時間的に難しいというお話とリンクしないんですけれども。住民を集めて説明会を開く、そういうのを開く準備時間が難しいと、とれないというお話とリンクしないんですけれども。

【市長】 お墨つきが出た。また集めて、ゆっくり1から10まで説明をしてですということはないと思いますから、スピーディに行こうと思えば、そういうものが出れば、市として早目に判断したいと思います。当然、また知事とのいろんな話もしなくてはなりませんので、それをまた1から繰り返して市民の皆さん方にする必要はなしに、記者クラブで記者発表して、こういう方向でと言つたほうがいいような気がします。また、これが議会中であれば、議会中、3月でも6月でもそういう場所で適宜やつたらいいと思います。

【記者】 さっきのやり取りで確認したいんですけれども、国のお墨つきと市長がおつし

やっているのは、要するにもんじゅ安全性確認検討会とその後の原子力安全委員会の答申の話のほうを指しているのか、耐震の話をしているのかと、ちょっと区別してお答えいただきたいんですけども。

【市長】 要するに、耐震も含めて総論として、国として大丈夫ですよという形をいただければそれでいいと思います。

こっちはいいけれども、こっちは悪いということになれば、これは難しいですから、悪いということはまだないとは思いますが、総体として、全体として、もんじゅは要するに運転をしても大丈夫だよということをしていただくことが大事だと思います。

【記者】 それを言うと、要するに保安院のもんじゅ安全性確認検討会の議論というか、運転再開の妥当性を検討する項目の中には、最初からそもそも耐震安全性って入っていないんです。というのは、やっぱりさっき言ったように、要するに許認可の外で、念のために見ますという行為だから、それをやると全国の原発を止めないといけなくなります。でも、その相対として、もんじゅを運転再開しても大丈夫ということを使うのなら、多分、今、耐震の話をする必要はなくて、保安院がその検討会でオーケーということ言えばいいのではないかなと思うんですけども、市長は、そこをどう把握というか、分離というか、区別されているんですか。

【市長】 先ほどちょっと触れましたけれども、760ガルの基準のそういうやつも大体出ていますから、それはそれとして理解をしながら、その部分についてはある程度クリアはできてきているのかなという認識の中で、最終的に保安院のほうでこれはもう大丈夫ですねという、保安院も別だと言いつつながらも、耐震のほうについてはある程度の認識を持って私どもを指導してくれると思っています。

【記者】 今、もんじゅのことで、耐震安全性のこととか、保安院の評価のこととかいろいろ話が出ましたけれども、市長として、運転再開を了解するに当たって何を判断材料にされるというふうにお考えですか。

【市長】 先ほど言いましたように、国としての安全宣言といえますか、どういう言い方をしたらいいのかわかりませんが、そういうものをいただければいいと思います。

【記者】 それ以外では、何か必要なものってあるんでしょうか。

【市長】 大体1に安全、2に安全ですから、3に安心、4に安全、5に安全ですので、それはそれとして受けとめます。それ以外という話もありますけれども、それはまた別の話で。

【記者】 議会に諮るつもりはありますか。

【市長】 恐らく議会に例えば諮って、じゃ運転再開を賛成の人、反対の人という、今まで過去にそういうことは一度もなかったのではないかと思います。例えば、市が出す議案ということはもう議案になるわけでありますので、市議会へ諮る市の議案として、もんじゅ運転再開というのはないと思いますし、今まで過去にも議会の声は聞きますけれども、いろんな一般質問なりそういうところで声は聞きますけれども、議会に判断を仰ぐということはないというように思います。

【記者】 議案として出さなくても、例えば原特で諮ったりとか、原特の特別委員長報告を求めたりとか、あるいはその一般質問で議論するとか、そういう議案以外の手続としての議論というのはあると思いますけれども、そういうところはどうですか。

【市長】 恐らく2月24日から始まる議会の中でも、そういう議論はかなり時期も近くなってきておりますので、出てくるのではないかなというように思います。そこで質問の中であれば、自分なりの考えは示していきたいなというように思います。

【記者】 そもそも機構から事前協議願は出てこないかと議論するもへったくれもないので、そこら辺はどう考えていますか。

【市長】 おっしゃるとおりで、願いが出ませんと、それは議題には上らないと思います。

【記者】 とすると、少なくとも議会開会前には事前協議願出てこない、もう年度内というのはないかと、そういう考えなんですか。

【市長】 それはまた議会は2月24日からですから、18日まで開会しておりますので、その間のこともありまじょうし、またその後ということも全くないということでもないと思いますので、恐らく、でも今回議会の中でそれが出ようが出まいが、そういう時期が近づ

いているなら、もし出た場合はどうするんだというような話とかいろんな話が出てくると思いますので、それはそれなりにお答えをしていきたいなと思います。

【記者】 確認ですけれども、必ずしも今回の3月議会で、事前協議が出ている、出ていないというのは必ずしもこだわらないと、そういうことですか。要は議会としては議会で議論するのはいいことですが、要は手続として事前協議が出る。それを受けて、議会が議論する。議会が結論を出すと、そういう手続的なところのスケジュールにはこだわっていないと、そういうことですか。

【市長】 これは出す側があるわけでありますので、出てきませんと私どもも判断のしようがないところもありますので、それは機構として、どのように対応されるかは機構にお任せするしかないと思います。

【記者】 今日から赤レンガ倉庫の隣の公園が供用開始になったんですけれども、市長、今改めてあのかいわいというよりは赤レンガと隣の公園とをどう活用していきたいなというのをお考えですか。

【市長】 ちょうど緑地のほうもいろんな面でムゼウムのほうもたくさんの方が今来ていただいているようでありますので、そういう皆さん方も散策していただけたらいいなというように思いますけれども、まだ赤レンガ自体もなかなか手がついていない。本当にあそこに集客できるような施設ができると、もっとにぎやかになるかなという気はしているんですけれども、あそこも耐震を含めて改築しようと思うと相当お金もかかるので、今直ちには取り組めないかなという思いで、だから一歩ずつあそこをある程度時間はかかりますけれども、時間をかけてもっとたくさんの方が来ていただけるような場所にしていきたいなという思いは持っております。

【記者】 さっき取材がてら散策していきまして、いいところだなと思ったんですけれども、全国で赤レンガを活用している都市というのは港まち数多くあります。しかしながら、我が市の赤レンガ倉庫は耐震性の不足の関係で、あれを建物としては使えないわけで、耐震補強しようと思ったらやっぱり億単位の予算を必要としているわけですよね。今、市長はやっぱりいずれはお金をかけても、建物自体は何かの施設にするなり、活用していきたいと思っているのか、それとも文化財として、ああいう公園も隣につくって、風景として活用していくという、ラインとしてはどっちのほうでお考えですか。

【市長】 実は昔、青年会議所とか、いろんな皆さんの関係で、何度か中も使わせていただいて、ビアガーデンをしたり、レストランをしたりと、いろんなイベントを実はやりまして、そういうものを体験するとやはり建物を活用していくのはいいなという思いは実は持っております。そういうことでお金はかかりますけれども、将来に向けて中身を含めて活用できるものにしたという思いも持っていますし、赤レンガ倉庫の活用のいろんな委員会などで議論していただきましたけれども、やはりそういう意見がかなり多いんです。要するに、ただ建物がいいなと思って外から眺めているだけではなかなかもったいないということもあります。ただ、お金がもったいないにするのか、こっちをもったいないにするのかの非常に難しいところと、今はこの経済状況でありますので、しばらくは時間をかけて、今はしばらく観賞用として置いておくのが一番いいかなと思います。将来は、何らかで活用していけたら一番いいなと思います。

【記者】 インフラと言っているんですか。観光じゃなくて、今度は交通のほうですけれども、新幹線どうなるのかちょっとまだわからない状態で、駅舎の件は市長は3月議会でどういうふうに説明をしていくつもりですか。

【市長】 新幹線については3日前の停電騒ぎでもあれだけの大騒ぎしておるのが、地震が起きて東海道なり新幹線使えなくなったら、世の中どうなるんだということをやはり政権はしっかり把握をして、直ちに敦賀まではまず認可をして、敦賀まで新幹線を引っ張ってくると。駅部の認可なんていう細かいこと言うたらんと、敦賀まで線を引っ張るというような覚悟で政権は臨んで欲しいなというように思っております。そういうふうに動いてくれば、敦賀の駅舎についてもすぐに連絡できる形でいけますし、今恐らく認可が遅れても、変えられる形で設計してありますのでいけますが、やはり物すごく大きな弾みもつきますから、新幹線については積極的に国として北陸新幹線を最優先に取り組むべきものだというように思っています。駅舎は駅舎でしっかりやってまいります。

【記者】 それにからんでなんですけれども、バリアフリーを平成22年度中にやらないといけないと思うんですが、まだ工事も始まっていませんよね。完成するのでしょうか、大丈夫なのでしょうか。

【副市長】 この間の委員会等で説明させていただいておりますけれども、予算はやっぱり22年度がタイムリミットですので、その予算を使いながら完成に持っていくわけです。それが本当に工事も22年度いっぱい終わるかといったら、少し難しい面も出てきているなということは認識していますけれども、そういうような説明をさせていただいたところでは。

【記者】 赤レンガの話が出たところでなんですけれども、すぐ近くには港線が走っていたわけなんですけれども、ちょうど今年の3月いっぱい運行休止になってから、廃線と言ったらいかなのですよね、運行休止になってからちょうど1年になります。昨年12月にちょっと私どもの番組で再度その件を取り上げたんですけれども、その際にJR貨物にもちょっと確認したんですが、今、踏切が全部閉鎖されているのは御存じですよ、線路に入れないように。車が一旦停止しなくても通れるようになっているんですけれども、それはそれで安全対策ということでJR貨物もおっしゃっていましたが、ぱっと見た目がもうこの線路には何も走らさんぞというふうにも見えなくもないんです。

ちょうど港線が運行休止になる前に、市としても今後何らかの活用策を考えていきたい。あるいはJR貨物もイベント列車を走らせたりすることに関してはやぶさかではありませんというような答えももらっていましたが、ああいうふうに遮断されると、結局使えないじゃないかと。本当に港線を敦賀市のあれはやはり近代化の一つの遺産だと思いますので、赤レンガもそうなんです、その辺含めての総合的な何か今後の方向性というんでしょうか、そういったものを改めてお持ちなのでしょうか。

【市長】 港線の活用というのは、本当に大きな課題として取り組みながら、イベント列車を走らせたり、デュアル・モード・ビークルあれもなかなか実用化されそうになってされなかったり、私どもそれが走らないかということを検討したり、いろいろ取り組んできました。そういう中で、全国に二十幾路線が休止になっていますけれども、今一つとして再開したところはないということでありまして、そういう思いがちょっとJR貨物さんにも強いかないというような。恐らく全国でもああいうような形で、安全対策ということで線路側に侵入しないように柵を設けてありますけれども、感じたのは一緒に、これはなかなかもう通れないぞというように感じました。あそこでイベント列車を走らそうと思っても、そんな頑丈なあれではないので、簡単に取り外して使えるというように思います。お金さえあればできるんです。みんな買い取って、市としてあの路線を残して使っていけばいいんですけれども、維持管理にも相当お金がかかりますし、買い取るにもお金がかかりますので、そういう採算が合うような、費用対効果が合うかという、とてもじゃないけれども合わないと思いますので、そうなるのとやはり今これからもJR貨物さんに働きかけをして、何らかの形で動いていただくように、それはやはり荷物、今のコンテナ、港の活用化の中で、これなら採算の合う貨物が走りますということに持っていければ、また交渉はできるのかなというように思いますので、そういう点では港を元気にして、コンテナをたくさん集めてそれがJR貨物を利用してくるようなものに持っていって、初めてそういう交渉ができるのかなというように思いますので、それを今は努力していくしかないのかな。イベント列車もまた考えられますけれども、なかなか今まで以上に、その柵を取ったりするのに借りるお金が高くなってくのではないかということで、イベント列車も走らせたいんですけれども、ちょっと難しいかなという気はします。港の活性化が、逆に言うと港線の再開につながるということを感じながら頑張りたいと思います。

【記者】 敦賀短大のことなんですけれども、2月くらいにもう1回説明されると、市長も前の会議のときに言われていたと思うんですが、前の説明なんかでも議員さん方たちは5年間いろいろやっていて、目に見える形でやってこなかったのかなんとか、いろいろ不満というか、そういう意見も出たんですけれども、2月の説明はどういうふうな形で、理解を求めていかないといけないと思うんですけれども、どういう形で説明されようかなと思っているのでしょうか。

【市長】 大体、前回にお話しした話なんですけれども、そういう中で具体的な数字とか

もあらかしなながら、例えば具体的な年度なども説明をしながらいきたいなと思っております。今ここで詳しく言うとまた大変なことになりますので、それは次の議員の皆さんの説明のときに話をしたいなと思います。

【記者】 では、説明のときには何年までにとか、どれくらいのお金がかかるかとか、そういうことなどを示していただけるのでしょうか。

【市長】 はい。

【記者】 何回も確認なんですけど、もんじゅですけれども、耐震も設備面についても国の報告書がまとまらなくても、保安院の安全だという判断がきちんと示されればいいと。その段階で事前了解願、どういう名前なのかわかりませんが、機構のほうから了承してくださいという願いが出されれば、市長として判断をすると、そういうことでいいでしょうか。

【市長】 機構のほうもある程度そういう安全性なり、いろんなことに対する自信を持たないと出してこないと思いますので、しっかりそういう自信を持って、やる側として、またそして規制する国側の話もありますので、まずそれを実行する者が一番自信を持って取り組まなければならない問題であります。そういうものを機構自身が絶対大丈夫だと、頑張るといってそういう意識の中でもし提出をされてきたときにはされたなりにこちらは検討しなければならんなと思います。国もそれなりの時期に保安院としての評価も出てくるのではないかなと思っていますけれども。

【記者】 ということは、機構側からの了解願が先でも、国の安全の判断よりも先のケースでも機構側からの願いを受け取って判断にかかるということですか。

【市長】 それはないと思うんですけども、ある程度保安院のほうで、こうして持ってくると思います。

【記者】 直接は関係ないんですが、市政にも密接には影響してくると思いますので、夏の参議院選挙に向けて結構動きが慌ただしくなっているかなと思うんですけども、嶺南も含めて政治状況を今、市長はどう見てらっしゃいますか。

【市長】 それはもうそれぞれ皆さん方が頑張っていただければいいなと思います。

【広報広聴課長】 ほかにありますか。

ないようでしたら、これにて2月市長定例記者会見を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時23分 終了